

私は3週間、中学校の英語科で実習を行った。

まず初めに、学校の特徴としては、3つの小学校が一つになった中学校であり、生徒数が約900百人を超える、大規模な学校である。そのため、先生の数も50人を超える。また部活動も活発である。しかし、生徒数が多く融通がききにくいのも現状である。また、学校の近くに、児童養護施設があり、人権教育の中でも家族の話題について触れることについてとくに気を付けている。

実習内容としては、担当学年は2年生で担当教科は、英語科だった。1週間は、主に英語科の授業見学を行った。また、学校には、ALTが来ていたため、その先生とTTとして授業を行うことを1週目の木曜日に行った。そして、実習期間一週目の金曜日からUnit2part2の本文～Unit3part2まで授業を行った。4クラスを担当し、一日に約4時間分授業を行い、道徳の授業も2回分を行った。

私が、この教育実習で目標としていたことは、生徒とたくさん関わり、実際の生徒について知ることと英語の授業を誰にとっても分かりやすいようにすること、小学校の教員を目指しているため、小中連携の視点から課題を探すというこの3つである。また、実習で力を入れたことは、出来るだけ生徒との関わりを増やすことである。例えば、毎朝あいさつ運動に参加することや休み時間、昼休みや放課後にも下校指導を行い、生徒と共に過ごす時間を出来るだけたくさん持つように心がけた。そうすることで、授業中だけでは見えてこなかった生徒一人ひとりの特徴や信頼感を得ることができ、授業に活かすことができた。

授業で工夫した点は、出来るだけ、どの生徒にとっても分かりやすい授業にすることである。例えば、授業プリント一つをとってもユニバーサルデザインのフォントを扱い、ズレなどをなくした。また、電子黒板があったため、パワーポイントを使い、難しい問題の時には、ついていけない生徒へのヒントを出しておくことや説明を分かりやすくするために画像を用いた。そして、机間指導を出来るだけ多くすることや、ペアワークを工夫することなどを通して誰にとっても分かりやすい授業を心がけた。

実習をしての気づきは、生徒指導とは、叱ることだけではないということである。教員の方は毎日なんらかの生徒指導があり、それぞれの生徒が抱える背景を理解しながら、寄り添う意識を持って話を聞き、指導していることが分かった。また、英語に関して、想像以上に苦手意識を持っていることである。そして、クラス内での学力差が大きいことを知った。

指導していただいた事は、授業で英語の知識だけを伝えるのではないと言う事である。英語の知識がなくても生きていけるが、基本的行動が成り立っていなければ生活していく上で困る。そのため、授業ではめりはりを身につけさせることや生きていく上での知恵を伝えられる授業を心がけることと指導していただいた。声のトーンや強弱、ジェスチャーなどがとても大切であることも教わった。初めの頃は、41人学級で自分よりはるかに大きい生徒がたくさんいる中で、後ろの方まで声を届けることにも苦戦した。しかし、実習を進めていくうちに、強弱を意識したり、あえて黙って待つことなどの工夫が大切だと学んだ。

感想としては、初めの方は、生徒とどのように関われば良いのかも分からず戸惑いが多かった

が、休み時間も廊下などにいるなど、生徒とのコミュニケーションをとれる機会を多く持つようにした。すると、生徒も徐々に話しかけてくれるようになり、生徒の性格や雰囲気は少しずつ感じ取ることができるようになった。授業と休み時間では、また違った生徒の様子を見ることができるので、休み時間もコミュニケーションをとるには大切な時間であると思った。

また、学校現場を実際に経験して、自分の想像していたことと全く異なっていた。私は、毎日、授業のフィードバックと教材研究で放課後や空き時間は追われており、大変だと感じたが、私が経験しているこの仕事は、実際の教員の方にとっては、三分の一にも満たないような仕事なのだろうと感じた。授業づくりのほかにも会議や生徒指導、保護者対応、クラブ活動など放課後に様々な仕事が入っており、本当に多忙さが伝わってきた。それでも頑張っていらっしゃるのはやっぱり生徒の成長を感じることへのやりがいだと学んだ。

授業では、なかなか思うようにできなかった。自分が想像していたより、英語嫌いの生徒も多く存在しており、楽しいと思って欲しいと目標を立てていたが、それは達成できていなかったと感じる。どうしても自分自身に緊張感が出てしまい、楽しむ余裕が生まれていないために生徒も楽しむまでに至ってなかったのだと考える。大学で学んできた英語のアクティビティを行いたいと思ったが、模擬授業とは全く異なり、だれにとっても充実した授業にしたいと思った時に、それを実践することに躊躇してしまうことが多かった。また、生徒によって学力差が広く、驚いた。公立だからこそ、学力差が広く、それを1時間の授業でどう充実したものにさせるのかが難しかった。生徒に休み時間に、今日の授業は、どうだったと声をかけながら改善点を探していた。やはり、授業を受けている生徒自身に聞くことで、例えば、説明を一気にしているからもう少し短く分けてほしいなどの自分ではあまり気づかない視点を知ることができ、有効な手立てだと感じた。

これから教員になる上で、この教育実習を通して、自分の課題としては、もっと楽しむことだと感じた。授業の回数を重ねて、緊張感をなくし、心の余裕ができることで、柔軟に生徒の発言を拾い上げることや、そこから広げていくことができるようになりたいと思った。英語の勉強の知識だけでなく、自分自身の人間性を豊かにし、様々な経験から話ができる魅力的な教員だと感じる。